

# 西海ブロック水産業情報

NO. 95 (平成28年10月～12月)

## 増養殖情報

山口県	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県
	<p>○筑前海 フトモズク養殖:年内に種網を作成。年明け2月から各地で海上養殖を開始予定。3月下旬初摘採の見込み</p> <p>○有明海 ノリ養殖:10月17日に採苗開始。採苗は順調に終了し、その後も順調に経過したが、11月11日にあかくされ病を初認。その後大量感染も確認されたが、管理強化指導により11月下旬には小康状態。 秋芽生産は、10月17日から12月18日まで行われ、生産枚数2億7231万枚(過去5年比84%)、生産金額37億6,077万円(同107%)、平均単価13.81円(同+2.95円)。 冷凍生産は、12月26日から開始の予定であったが、高水温により赤潮が継続し栄養塩が減少したため、1月6日から延期。</p> <p>○豊前海 【カキ養殖】 ・成長、生残とも良好に推移。 ・ただし、台風により大型のカキが落下し、一部の漁業者の生産減。 【栽培関連】 ・「かぐや装置」によるアサリ稚貝生産、干潟での放流試験を実施中。 【資源管理】 ・底びき網漁業者がヨシエビ、シャコの体長制限(ともに10cm未満)等の自主規制を実施。</p>	<p>○有明海 ・ノリ養殖 28年度漁期は10月17日に始まった。秋芽網期は、11月末までは漁場の栄養塩に恵まれ、良質のノリが生産された。12月に入り西～南部漁場の栄養塩濃度が急激に低下した。12月19日の網撤去までの生産枚数は前年の約128%、生産金額は前年の約139%となった。 冷凍網の張り込みは、12月中旬以降、漁場全域で栄養塩が少ない状況が続いたために、年明けの1月6日へと延期された。</p> <p>・カキ養殖 太良町大浦地区で養殖されているカキは、夏季の大量死もなく順調に生育した。11月上旬に実施した調査から、28年度の収穫見込みは27年度の86%程度と若干減少したものの、直近5年のうちでは27年度に次いで2番目であった。出荷は、12月1日に解禁された。</p> <p>○玄海 ・ナマコ:7月上旬から10月下旬に86.4万個(10～20mmサイズ)配布。 ・クロアワビ:平成27年度産:12月中旬から3万個(30mmサイズ)配布。殻長15～27mm 約13万個飼育中。 平成28年度産:10月25日から種苗生産開始。 12月末時点で殻長2～4mm約20万個飼育中。 ・アカウニ:9月26日から種苗生産開始。 12月末時点で殻径2～10mm約100万個飼育中。 ・アゲマキ:10月20日から中間育成開始。 11月下旬から12月上旬に23.3万個放流(9～10mmサイズ)。</p>		<p>・イリドウイルス病が継続的、散在的に発生した。 シマアジ、カワハギでの発病。</p>

鹿児島県	宮崎県	大分県	沖縄県
<p>・12月中旬から西海区水研五島庁舎の指導のもと、ブリ種苗生産実証試験を開始 ・鹿児島湾で10月下旬にGyrodinium instriatumによる赤潮が、12月下旬にMyrionecta rubraによる赤潮が発生したが、いずれも漁業被害はなかった。</p>	<p>○アカアマダイ種苗生産試験関連 10月22,23,24日の3日間で24尾の雌親魚(活魚)から約44万粒の卵を採取し、授精翌日に受精卵をオキシダント消毒(0.5ppm、1分間)したのち、約9万粒を県内種苗生産機関に提供した(育成後、2月に標識放流予定)。なお、授精に先立ち、14尾の雄親魚(鮮魚)から生殖腺を摘出し、個別に人工精しよう液に精子を懸濁したのち授精まで冷蔵保管するとともに、網膜、脳のVNN検査(Nested-PCR法)を実施し、授精時にはVNN陰性及び精子の活性の良好な6尾分を授精に用いた。</p>		